

No. 46

2001年3月1日発行

宇治市中央図書館
〒611-0023 宇治市折居台1-1
0774(20)1511

宇治市東宇治図書館
〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774(32)2232

宇治市西宇治図書館
〒611-0042 宇治市小倉町山際63-1
西小倉地域福祉センター3階
0774(22)8240

と し ょ か ん 宇 治



木城えほんの郷、テラスでのよみ聞かせ風景(写真提供同所)

森とえほんと山里と

宇治市中央図書館

館長 山本徳善

木城えほんの郷は、今から六年前宮崎県木城町に、絵本を中心に演劇や音楽を楽しむファンタジーゾーンとしてオープンした施設です。場所は九州山脈の山ふところにいだけられた、かつて白樺派の文豪武者小路実篤が拓いた理想郷『日向新しき村』の近くです。

この郷は周囲の豊かすぎるほどの自然の中で、絵本を通して子どもたちの感性を育み、また外国から劇団を招いたりなどの多彩なイベントや催しを通じ、文化の発信をしていくことを活動方針として、八人のボランティアスタッフによる運営がなされています。

山また山といった過疎地を訪れた第一印象は、「なぜこんな辺鄙な山の中で、そして活動は本当なのだろうか」というのが偽らざる心境でした。

出迎えていただいた「郷の村長さん」黒木郁朝氏(欧米に契約画廊を持つ版画家でもある)やブックアドバイザーの皆さん方と懇談している間に、最初に抱いた疑問は完全に氷解し、むしろ逆に驚嘆と感動に変わっていったのです。すなわち、えほんの郷のスタッフが「本が好きで好きでたまらない、いつまでも本と関わっていきたい。そのためには少々の距離など厭わない」とおっしゃる。ちなみにスタッフ全員が地域外からマイカーで駆けつけているとのこと(交通機関は何もない)。

スタッフのほとぼしるような熱い思いもさることながら、実はそれ以上に素晴らしいのが『都会の図書館では出来ない、この地だからこそ出来ることをやる』といった信念と方針のもとに、質の高い子ども文化を発信し続ける素材が、周囲を取り巻く森であり山であり、そして「森のえほん館」の世界各国の一万冊もの絵本や、常設展示されている絵本原画なのです。

「ここにはネイチャーとカルチャーがあります」と事務局長の森さんが言われるように、人口五、五七三人の小さな過疎の山里は、さながら現代の新しい理想郷として純真な夢文化の発信を続けています。

えほんの郷を辞去する際に、ブックアドバイザーの重富さんから「月の出る時間にあわせて演劇をやります。すごく感動的ですよ。一度来ませんか」とのお誘いには、是非乗ってみたいと思っています。



「はにわの作り方を知りたいねん」
 「僕は土器やねん。」学校を終えた六年生が調べにやって来ました。図工の時間のサンプルを探しているのかと思って聞いてみると、縄文時代の勉強で、当時の様子を再現しながら作るのだそうです。

それならば、たしか、児童向に書かれた「歴史体験」を試してみたいというぴったりのシリーズがあったはず。そこで、〈21〉の日本史の棚に案内しますが、あいにく一冊も並んでいません。周りにある本を調べてみますが、実際に作るとなるとあまり参考にはならないようです。仕方がありません。六年生ですから大丈夫でしょう。成人書コーナーを当たってみます。〈751〉の焼きものの辺りに目を走らせます。七、八ミリの厚さですが黒い地に「野焼き」という白抜き文字が見えました。中身はどうでしょう。ありました。「野焼きその九、同じ材料、道

具、技法を使って、縄文土器の復元に全力をそそぐ。」

早速、九八頁を開きました。作り方は写真でわかりやすく説明しており、ルビ付です。はにわの事も「その五」にあるようです。

翌日から縄文時代の食事や衣装を調べに次々子供たちがやって来ました。

また、ひと月ほどして今度は五年生が、授業中にクラスづつ、先生といっしょに調べに来てくれました。テーマは、「米」だったようです。

「縄文時代」も「米」も、授業の科目は「総合的な学習の時間」と呼ばれるもので、二〇〇二年の実施に向け、二〇〇〇年から、移行期間がスタートしています。

子供たちにとっては、体験学習とともに、調べ学習の機会も増える事でしょう。

仕方なく(?)図書館にやって来た子は、初めての来館かもしれませんし、施設見学以来かもしれません。私達図書館員は、そんな子供達の調べ学習のお手伝いをしたいと思っていますし、また、ちょっとはどきどきしながらも、恥かしがらず、恐がらず質問できるような雰囲気づくり

に努めていきたいと思っています。

▼紹介した本▲

「やきものをつくる 野焼き」
 『つくる陶磁郎』編集部著
 双葉社

「歴史が好きになる縄文人のくらし」
 (全六巻)
 学研
 「焼きものの歴史」
 池田昭文 稲川弘明・絵
 小峰書店



ちよつとつづく

先日、(県)神社について調べに来た小学生と、漢字がむづかしいのでいっしょにさがし、県神社は、一〇五二年に、藤原頼通が平等院建立に際しその鎮守社としたと言われ、祭神の木花開耶姫命は、吾田津姫ともいわれるという記述がありました。

という歌ものこっています。いっしょに調べている間の三人の子供たちとのやりとりです。「県祭りは行ったことあるけど、平等院はしらんわ。」「え!」「世界遺産の平等院よ!」「しらん:」

- ・「宇治橋の神は茶の花さくや姫」
- ・「新茶買ふや県祭の泊り客」

宇治の小学生が平等院という名も知らない聞き、ショックが抜けない一日でした。(M・T)



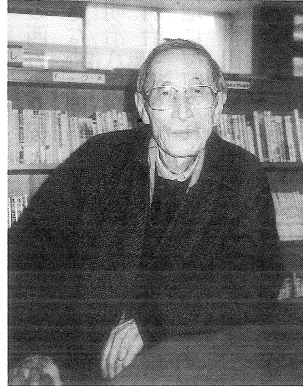
* 図書館での自習はご遠慮下さい。

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第32回

川端良造さん



今回は、退職されてからずっと図書館を利用しているという、南陵町の川端さんにお話を伺いました。

★図書館にはよく来られますね
家に閉じこもっているのがいやで、よく本を借りたり、調べ物をするのに利用しています。中央公民館のサークルや、歴史資料館の講座なども楽しんでます。
西宇治の図書館もたまに利用しますが、蔵書の多い中央に来ることが多いです。

★どのような本を読まれますか

国文学や漢文の本が好きなんです。クイズやいまはやりのITの用語などを調べたりするのに図書館は役にたっています。高価な本も利用できていいです。

★図書館に何か要望はありますか

ゆっくりとくつろいで読書出来る席が欲しいですね。もう少し広ければね。本も新しい本がもっと欲しいですね、文学全集なんか古いですね。

「ボケないために」とおっしゃりながらも、何にでも興味を持って活動的な川端さん。元気の源はと問いますと、「外に出て行って、人と接すること」、「興味を持って明るく前向きに」だそうです。
反対にいろいろ教えてもらったインタビューでした。ありがとうございました。

山吹は愛しい人の面影の花

宇治市の「花」は「山吹」です。興聖寺の琴坂に咲く山吹は、宇治十二景のひとつ「春岸の山吹」として知られ、古くから山吹の名所として名高いものがあります。そこから宇治市の「花」にえらばれたのでしよう。

山吹は、バラ科の落葉低木で、『山で風にかかれてゐる木』からその名がついたといわれ、低い山や河川のほとりに群生します。三月から五月にかけて、鮮やかな黄色の花を咲かせ、その可憐な美しさは人を魅了させます。なお、八重咲きの山吹には実がつきません。

また古くから詩歌にもよく出てきます。万葉集では十七首中、十二首が「恋の花」として詠まれ、愛しい人の面影が重ねられています。

「山吹を
宿に植ゑては見ることに
思いはやまず恋こそまされ」
大伴 家持

山吹を庭に植えてみたら 美しい花を見る度に貴女のがまますます愛しくなります

有名な「太田道灌と山吹」の話もある

りますね。

ある日、道灌は鷹狩りの途中でにわか雨にあい、近くの農家で蓑を借りようと立ち寄ります。

すると少女が出てきて、ただ無言のまま、黄色く咲いた山吹の一枝を差し出しました。道灌にはその意味がわからず、「花を求めたのではない」と不機嫌のまま帰りました。

ことの始終を家臣に話したところ、それは

「七重八重

花は咲けども山吹の

実の(蓑)一つだに

無きぞ悲しき」

という古歌で返答したのだと教えられます。花が咲いても実のつかない山吹にたとえ、「家が貧しく蓑さえありません」とゆかしく断ったのでした。

道灌は自分の無学を恥じて、これを契機に大いに発奮し、ついには歌人としても名をなしたということです。

山吹の花を見て、愛しい人を想ったり、七重八重の歌

が思い出されるのもいいものですね。花と出会いに出かけましょう。



郷土のはなし

作田神社

宇治市の西部に位置する伊勢田町の若林に伊勢田神社が鎮座して...

作田神社の由来は定かではありませんが、祭神は大歳神で、この神が農耕の守護神であることから...

この神社は、もともと伊勢田神社の西方の井尻という所であって、大きな森に囲まれていたようですが...

作田神社の旧社地付近から、水が湧き出て、神水とされていたと伝えられています。水は農耕にとって重要であることはいうまでもなく、生物が生きていくうえにも重要であることから、ここを聖地として祭られたのかも知れません。

ところで、この神社が井尻にあった頃、毎年正月十二日に神事が行われていました。その神事とは田一反分(およ



そ千㎡)の稲わらで大きな縄を作り、村人がこれをついで、村内を練り歩くものでした。これを「大縄の神事」あるいは「お縄さま」と呼ばれていました。また一説には、村民が北と南に分れ、この大縄で綱引きをし、その年の稲の豊凶を占ったともいわれています。祭りの当日は伊勢田地区の住人はもちろん付近の人々も見学に来たといわれ、この見物客に、伊勢田の家々では御神酒がふるまわれ、大変賑ったと伝えられています。

作田神社のある伊勢田神社は、静かなたたずまいで、付近の人々の憩いの場所となっています。また本殿は江戸時代初期に建てられたもので桃山時代の建築様式が残されており、京都府の指定文化財にもなっています。機会があればぜひ訪ねてみて下さい。

あとかぎ

平成十二年度の貸出冊数は、全館で百万冊に迫る勢いをみせています。多くの市民が図書館を利用されて...

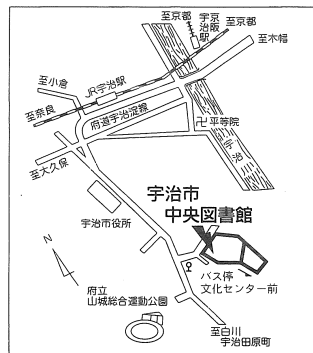
(H・T)



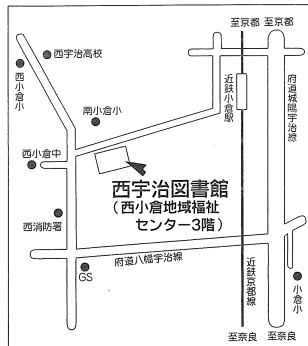
利用案内

- 市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、一人10冊3週間(そよかぜ号は約1ヵ月)本が借りられます。貸出券は全館共通です。
図書館は9時から17時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、第4木曜日、祝日、年末年始です。

中央図書館



西宇治図書館



東宇治図書館

